

令和6年度第1回山口南警察署協議会会議録

開催日時	令和6年7月12日（金） 午後3時30分から午後5時10分までの間	
開催場所	山口市小郡下郷3848番地1 山口南警察署4階 講堂	
出席者	委員	原田委員、西村委員、上野委員、伊藤委員、宇佐川委員、 福江委員 計6名
	警察署	署長、副署長、会計課長、警務課長、留置管理課長、 生活安全課長、地域課長、刑事課長 計8名
議題	1 業務説明 2 警察職員採用募集活動の推進	
<p>1 会長挨拶</p> <p>今年度、第1回目となる警察署協議会を開催するにあたり、会を代表してご挨拶申し上げます。</p> <p>山口南警察署の皆様には、市民生活の安全と平穏を確保するため、日夜、職務に精励されているところであり、そのご苦勞に対して感謝を申し上げます。</p> <p>さて、新型コロナウイルスによる行動制限が緩和されたことを受け、人の往来が増し、普通の生活を取り戻しつつある中で、事件や事故に巻き込まれるケースも増えている。また、山口市が「2024年に行くべき都市の3番目」に選ばれたことを受けて、国内外から多くの人々の来訪が予想されており、おもてなしの精神でお迎えする一方、安全・安心の確保に向けた取組が求められている。</p> <p>山口南署では、署長をはじめ幹部全員が入れ替わり、本日が初の顔合わせとなる。当協議会は、これまでと同様、理解と協力の下で、住民の代表として意見や要望を述べさせていただくので、よろしく願います。</p> <p>今回の諮問事項は「警察職員採用募集活動の推進」についてである。山口県警察でも採用情勢は右肩下がりの状況が続いていることから、最重要課題として、新たな視点により採用活動の在り方を模索中だと伺っている。委員の皆様には、積極的な意見交換や提言をしていただき、警察署の運営に役立てたいと考えている。</p>		

2 署長挨拶

(省略)

3 業務説明

令和6年1月から5月の業務推進状況について、以下の項目に沿って説明した。

- (1) 警務課関係
警察安全相談の受理状況
- (2) 生活安全課関係
 - ア 犯罪抑止
 - イ 少年非行
- (3) 地域課関係
 - ア 110番受理状況
 - イ 地域安全活動
- (4) 刑事課関係
 - ア 刑法犯の認知・検挙状況
 - イ うそ電話詐欺の認知状況
- (5) 交通課関係
交通事故の発生状況

4 諮問事項

警務課長が、警察職員採用募集活動の推進について、以下の項目に沿って説明した。

- (1) 採用試験の受験状況
- (2) 若手職員の意識
- (3) 採用試験制度
 - ・ 山口県警察職員採用試験区分
 - ・ 「応募者数増加」に向けた制度改正
 - ・ 「多様な人材確保」に向けた制度改正
- (4) 採用募集活動の推進状況
 - ・ 広報内容
 - ・ リクルーター制度
- (5) 具体的な活動事例
 - ・ 警察本部主導の取組
 - ・ 警察署主導の取組
 - ・ SNSを活用した広報
- (6) 県警全体としての取組
 - ・ 働きやすい職場環境の整備
 - ・ 女性の活躍促進
 - ・ 休暇の取得、時間外勤務の抑制

5 協議

(委員)

採用をめぐる問題は非常に難しいことだと思う。民間企業も人手が足りず、いい人材を取りたくても志願する者が集まらない状況にある。

警察の採用試験にSPI3を導入したと聞いたが、私も経営者として、採用にあたってはSPI3試験を導入している。採用したはいいが、すぐに辞めてしまう。また、いつまで続くか分からない。人に迷惑をかければ組織全体の士気も下がってしまう。SPI3試験は性格面が出るので、面接では分からないことが見える点で大事だと思う。

警察の魅力と言えば「やりがい」であるが、まだまだ伝えきれていないのではないか。また、業務では大変なことも多いが、プライベート面での良さをアピールし、広報するとよいかもかもしれない。

(委員)

多様な募集活動を行うなど、努力されていることに感心している。

知り合いの自衛官も大変だと話しており、教員も「学校はブラック」と言われて苦慮している。また、以前は非常に人気のあった公務員の志望者が少なくなったと聞いている。少子化の波の中、受験者が減るのは仕方ないことではあるが、警察業務の大変さ、大切さを考えると、素晴らしい資質を持つ人材を採用していただきたいと思う。

警察と武道には、深いつながりがある。武道は、「正しいことをする」「生活を守る」「弱い人を守る」という面で警察と通じるところがあると思う。しかし、今の子供たちは身近で武道に触れる機会が減ってきている。私は剣道を教えているが、私の教え子の中にも警察官になった者がいる。警察官の術科風景を見て「やっぱり警察官はすごい」「かっこいい」と感じれば、練習に励むのはもちろん、警察官を目指す者も増えるのではないか。子供たちが身近に警察を感じながら武道に取り組めるよう、警察署の施設で練習する機会を増やしてみてもどうか。

(委員)

日本の伝統文化にかかわるような意見だと思う。以前は、警察主催で柔剣道大会のような行事があったと記憶しているが、今はなくなったのか。

(警務課長)

以前は山口県警主催の少年柔道剣道大会があった。武道は健全な精神を養い、少年の非行防止にもつながることから、警察署の道場を開放して有段者の警察官が指導にあたり、柔道や剣道を教えていた。ところが、諸般の事情により、県警の大会もなくなってしまった。

県内の警察署では、スポーツ少年団に道場を開放し、警察官に代わって柔道や剣道の指導をお願いしているところもある。今や、野球やサッカーをはじめ多種多様なスポーツが選択できることから、柔道や剣道に参加する少年が減っているのかもしれない。

(委員)

確かに、昔は少年柔剣道大会をよく見に行った。少年人口が減少している中、柔道や剣道の参加者を集めること自体、難しくなっているのかもしれない。

(委員)

採用に関して十分な活動はされていると思う。

地域のイベントでパトカーを展示するなどのPRを行っているが、少しでも多くの行事に参加するなど、今後も地道に取り組むことが大事である。

また、警察官も定年が延長されると思うが、60歳で辞めずに、引き続き頑張っていたきたい。少子高齢化により、なかなか応募者がいないという現状を踏まえ、定年延長の制度を含めて人材を確保していくしかない。

(委員)

先ほどの話にもあったように、まずは警察官を確保しなければならない。民間企業も定年を延長して人材の確保に取り組んでいる。

30代から40代で仕事をしていない方や定職に就いていない方がいる。新卒者が減少する一方、こうした中年層の労働力はあると思うので、これを活用することはできないか。

我々が子供の頃は柔道と剣道のどちらかが学校で必須項目であったが、今は腕力や体力のない子供たちが増え、鍛えられていないから警察官のなり手が少ないのではないだろうか。

(委員)

警察は職場体験をしていないと思っていたが、しっかりされていて驚いた。

警察官は正義感が強く、ほかにも意思や冷静さ、知識、コミュニケーション能力、運動能力が必要というイメージがあり、尻込みする人もいるのではないか。小さいうちから柔道や剣道なりの運動をしていないと、なかなか難しいのかもしれない。

確かに、新卒者は減っているが、社会人を経験して転職する方が増えているとも聞く。プレゼンテーション能力などをどんどん高め、いろんな場所や機会に広報していくとよいのではないかと思う。

(委員)

中途採用の人が増えているのか。

(警務課長)

採用年齢の上限が高くなったこともあり、年齢の高い者や転職者は、一定数はいる。各学校に赴く募集活動もあるが、Uターンや再就職を考えている方を対象とした合同採用説明会にも参加しているので、その影響もあるのではないか。

(委員)

採用の対象を広げることは有効な手段だと思う。

ひとつ気になっているのは、視閲式が随分こじんまりとしてきたことである。警察の姿を県民の皆様にお示しするには、とても有効な行事だと思っている。ここ数年は、「ただやればいい」といった雰囲気、昔のような熱意を感じられない。もっと大事にするべき行事ではないか。

(委員)

採用情勢が厳しいのはよく分かったが、警察官の皆さんには、市民の安全・安心を守るため働いているということに自信を持っていただきたい。

(委員)

保護司会でも、新たな保護司を確保するためメディアを使って広報したところ、「どうやったらなれますか？」という問合せが増加した。やはりメディアの力は大きいので、警察もメディアを通じて良いイメージを作り、それを広めていくことが大事だと思う。

6 配付資料

令和6年度第1回警察署協議会資料（警察署作成）

7 その他

令和6年度第2回警察署協議会の日程は、別途調整することとした。